

マルチクライアント方式

調査企画書

[2022年版 感光体マーケット総覧]

『基幹部品としての重要度を 堅持する感光体市場の展望』

=依然として存在感を示し続けるキー部品=

2022年1月



日・中・米・欧の市場調査
株式会社 データ・サプライ

〈調査概要〉

I. 調査テーマ

[2022年版 感光体マーケット総覧]

『基幹部品としての重要度を堅持する感光体業界の展望』

=依然として存在感を示し続けるキー部品=

II. 調査主旨

欧米を中心に新型コロナの変異株がかつてない規模の感染爆発を引き起こしている。一時はワクチン接種率の高まりにより 2022 年中にパンデミックは収束に向かうとの期待も高まっていたが、現在は変異株の感染拡大が各地で相次いだことにより流行収束を見通せない状況へと後戻りした格好である。

オフィスプリンティング市場は新型コロナの収束如何に関わらず、成熟が進むとの見方が強いが、このような状況下で MFP・プリンタ業界の次の目標もある程度明確になってきている。すなわち働く場所が従来の集約型オフィスから自宅での在宅勤務やサテライトオフィスなどの分散型オフィスへと一気に拡大するなか、これら様々なワークプレイスの印刷ニーズに対応していくことが各社の基本戦略となる。実際、米 HP などは在宅プリント向けにセキュリティと消耗品を定額で提供するサブスクリプションビジネスを強化しており、新時代の働き方に対応したサービス提供の準備を着々と進めている。

感光体市場という視点からみると、現在の状況はポジティブな側面もある。コロナ禍以前のオフィスプリンティング業界は「A3MFP への印刷の集約」がトレンドとなっていたが、上記の通り、ポストコロナでは在宅勤務など多様な働き方に対応すべく「A4 プリンタへの印刷の分散」へとトレンドが変化する可能性もある。A3MFP への印刷の集約は感光体のロングライフ化と相まって感光体の出荷本数を減少させる要因となっていたが、A4 プリンタへの印刷の分散は感光体需要を回復させる可能性もある。中国市場の動きも目が離せない。同市場における MFP やプリンタ市場の成長率はここ数年鈍化しているが、ポテンシャル的には未だ大きな伸びしろが残されているとみる向きも強い。ローエンドプリンタ市場でシェアを急拡大させている奔图 (Pantum) や 2021 年に同市場へ新規参入した華為 (HUAWEI) など資金力と開発力を併せ持つ現地メーカーも揃ってきた。

新時代への移行期を迎え、感光体メーカーの生き残り競争もすでに始まっている。いまや感光体需要全体の 95%以上を日本と中国企業が生産しているが、近い将来、日本や中国からも淘汰される企業が出てくるだろう。ただ、感光体という部品は印刷物の画質に直結するキー部品であり、その重要度はこれからも変わらない。全体需要が頭打ちとなるなか、これまで以上に品質とコストを両立できる総合力を持ったメーカーに需要は集中していく。

「2022 年版感光体マーケット総覧」は、シリーズ第 32 回目の刊行となります。感光体メーカーのみならず、素管メーカー、材料メーカーを幅広くリサーチしていきます。本レポートをご利用いただく関係各位におかれましては、事業再発展の一助となることを望みます。

Ⅲ. 調査対象品目及び調査対象先

1. 調査対象品目

- | | | |
|--------|---|-------------------------------|
| 1) 感光体 | { | OPC感光体
S e系感光体
a-S i感光体 |
|--------|---|-------------------------------|

- 2) 感光体アルミ素管
3) 塗布材料

2. 調査対象先

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------|
| 1) 感光体メーカー | (国内 9 社、海外 23 社) |
| 2) 感光体素管メーカー | (国内 4 社、海外 4 社) |
| 3) 素管加工メーカー | (国内 7 社、海外 1 社) |
| 4) 感光体塗布材料メーカー
(CTL/CGL/UCL/OCL) | (国内 11 社、海外 2 社) |
| 5) ハードメーカー | (複写機メーカー9 社、プリンタメーカー15 社) |

Ⅳ. 調査範囲及び調査方法

1. 調査範囲

調査対象範囲は、2019年～2025年とする。また、対象範囲は日本、北米、欧州、韓国、中国、その他地域とする。

2. 調査方法

- 1) 取材対象メーカーへの直接訪問面接調査
- 2) 公開されている文献、資料、統計等の分析及び調査
- 3) 弊社に蓄積されているデータの活用

Ⅴ. 調査形態、調査期間、他

1. 調査形態

本調査はマルチクライアント方式による調査である。

2. 調査期間

2022年1月～2月

3. 調査報告刊行日

2022年2月25日

4. 提出報告書

A4判ワープロ製本 (参照：2021年版286頁)

5. 1社当りの参加費用

刊行前の御注文については10%値引き価格となり、**申込時に半金、報告書納入時に残金を請求**させていただきます。

刊行後の御注文は、報告書とあわせて定価にて請求をさせていただきます。

『2022年版 感光体マーケット総覧』

日本文版 …… ¥500,000- (消費税は別途)

(英文版 …… \$5,200-)

6. 調査担当

山本 幸男 / 吉田 晃介 / 針生 正史

(TEL : 03-3831-9201、FAX : 03-3831-9204、

E-mail : yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp)

ホームページ : <http://www.datasupply.jp/>

VI. 調査項目

A. 分析編

1. 感光体の全世界生産量（2019年～2025年予測）
日本／北米／欧州／中国／韓国／香港／インド／他
2. 感光体の種類別サイズ（長さ、直径）別生産量（2019年～2025年予測）
OPC／Se／a-Si／A4～A0／20φ～260φ
3. 感光体の用途別生産量（2019年～2025年予測）
PP／PPC／プリンタ／FAX
4. 出荷用途別（ハード本体出荷用／サプライ用）生産量（2019年～2025年予測）
OEM（ハード本体出荷用／サプライ用）／サードパーティ出荷量
5. 全世界の純正感光体とサードパーティ感光体の生産量比較（2020年～2022年見込）
メーカー別OEM比率とサードパーティ比率
6. 世界の生産量ベスト10（2018年～2022年見込）の変遷
全体／OEM向けシェア／サードパーティ向けシェア
7. 全世界の地域別・メーカー別・種類別生産量
日本／北米／欧州／中国／韓国／台湾／香港／インド
8. 全世界の地域別・メーカー別・用途別生産量
日本／北米／欧州／中国／韓国／台湾／香港／インド
9. OEMとサードパーティの生産量（2021年）
全世界／地域別
10. 外注／外販の拡大戦略
11. 日本と中国の感光体生産量の推移比較
12. 感光体用素管の生産動向
日本メーカー／海外メーカー
13. 日本メーカー各社の塗布材料使用状況
CTL／CGL／UCL／OCL
14. 感光体の国内外生産拠点
日本メーカー／海外メーカー

B. 感光体市場編

1. 日本メーカーの動向
 - 1-1. 集計分析
 - 1) 種類別用途別（PP・PPC／プリンタ・FAX）生産量
（2019年～2025年予測） 国内生産分／海外生産分
 - 2) 種類別地域別メーカー別用途別生産量
（2019年～2025年予測） 国内生産分／海外生産分
 - 3) 直径別用途別（PP・PPC／プリンタ・FAX）種類別生産量（2021年）
 - 4) 直径別メーカー別生産量、生産金額（2021年）
20φ～260φ
 - 5) 長さ別（A4、A3、A2、A1、A0）メーカー別生産量、生産金額（2021年）
 - 6) 直径別長さ別種類別生産量、生産金額（2021年）
 - 7) ロングライフ感光体（A3）のメーカー別開発動向
 - 8) 正帯電／負帯電別生産量（2021年）
 - 9) 負帯電 a-Si の生産計画
 - 10) 日本メーカーの用途別種類別地域別生産状況（2020年～2022年）
 - 11) ハードメーカーと感光体メーカーの供給関係と供給量
 - 12) 20年のあゆみ

1-2. 個別メーカー動向（2019年～2025年予測）

■ 共通調査項目 ■

- ・全体生産量・生産金額（2019年～2025年予測）
- ・地域別拠点別種類別用途別生産量（国内・海外）の現状と今後（2019年～2025年予測）
- ・生産拠点の動向（設備投資、製造ラインの増減と今後の拠点）
- ・直径別用途別生産量 ・直径別長さ別生産量と生産金額、単価（2021年実績）
- ・直径別長さ別製品ラインアップ状況 ・正帯電／負帯電別生産量
- ・ロングライフ感光体の開発と今後 ・外注／外販の拡大戦略
- ・小径化／大径化の状況
- ・塗布層と塗布材料（UCL、CGL、CTL、OCL）の現状と開発及び購入状況
- ・塗布方法 ・純正メーカーのサードパーティ製感光体への対応策
- ・純正品（OEM）とサードパーティ製品の生産比率 ・中国メーカーとの競争関係と共存
- ・供給先別納入量（2020年～2022年見込） ・感光体ビジネスの利益現状と今後
- ・ワールドワイドの生産拠点一覧 ・25年のあゆみ（2001～2021年実績、2022～2025年予測）

1) キヤノン 2) リコーグループ（①リコー、②山梨電子工業） 3) 富士フイルムビジネスイノベーション 4) コニカミノルタ 5) 京セラグループ（①京セラ、②京セラドキュメントソリューションズ） 6) シャープ 7) 三菱ケミカル 8) 富士電機

2. 海外メーカーの動向

2-1. 集計分析

- 1) 種類別用途別生産量（2019年～2025年予測）
- 2) 種類別地域別メーカー別用途別生産量（2019年～2025年予測）
日本／北米／欧州／中国／韓国／台湾／香港／インド

2-2. 個別メーカー動向（2019年～2025年予測）

■ 共通調査項目 ■

- ・地域別拠点別種類別用途別生産量の現状と今後（2019年～2025年予測）
- ・純正品（OEM）とサードパーティ製品の生産量（2020年～2022年見込）
- ・最新の出荷動向

地域	国名	海外メーカーの地域別拠点
北米	アメリカ(2)	Eastman Kodak、Lexmark International
欧州	オランダ(1)	Xerox Manufacturing (Nederland) B.V.
アジア	中国(12)	APS Photoconductor (Shanghai)、Eurasia Precision (Zhejiang)、Guangzhou A&G Optoelectronics Technology、Guangzhou Aotusi Office Equipment、HG Technologies、Huaian Gantech Opto Electronics、Hubei Far East Zhuoyue Technology、Hubei Hanmei Photoelectricity Science and Technology、Shenzhen Clord Printing Consumables、Suzhou Goldengreen Technologies、Zeloq (Shenzhen) Technology、Zhuhai Tian Ying Technology
	韓国(3)	KR OPC、NARA OPC、Sindoh (2021年撤退)
	香港(1)	Techno Enterprise
	インド(1)	OPC Technology Japan Pvt.

C. 感光体素管市場編

1. 全体集計

- 1) 感光体業界のエントリー動向（素管／伸管（引抜）／加工（切削）／塗布）
- 2) 素管メーカーと加工メーカーの取引関係
- 3) 素管メーカーと感光体メーカーの取引関係図
- 4) 拡大する中国製品の採用状況と今後
- 5) メーカー別生産量（2019年～2025年予測）
- 6) 直径別長さ別生産量（2021年） 20φ～260φ、A4～A0
- 7) 日本の感光体メーカーへの全世界のメーカー別拠点別供給量

2. 個別メーカー動向（2019年～2025年予測）

■ 共通調査項目 ■

- ・地域別（拠点別）生産量（国内・海外）
- ・種類別／直径別（20φ～260φ）／用途別／長さ別（A4～A0）生産量
- ・無切削／切削管の生産量
- ・感光体メーカーの生産拠点別納入量一覧（全世界）
- ・カラー用感光体への対応策（振れ、真円度、表面粗度、他）
- ・加工／伸管メーカーとの関係 ・生産技術動向（切削管、無切削管）
- ・価格動向、採算性 ・生産拠点の現状と今後

- 1) 昭和電工 2) UACJ 押出加工 3) 日軽金アクト 4) 富士アルミ管工業
- 5) その他(和勝、新馬、Well Sure、金鋁、瀚鼎、科諾、超精達鋁塑、ビナ・ワシン・ベトナム)
- 6) 引き抜き、切削メーカー
日本伸管、花村産業、サンエス、創和、内藤製作所、中国・協和精密機械、他

D. 塗布材料市場編

1. 全体概要

2. C T L（電荷輸送層）市場（2019年～2023年）

- 1) バインダー樹脂のメーカー別生産量（日本／韓国）
- 2) 材料別特徴／材料別生産量
- 3) 価格動向と採算性
- 4) バインダー樹脂の主要供給関係（日本／韓国／中国／台湾）
- 5) 個別メーカー動向
三菱ガス化学／帝人／出光興産／三菱ケミカル／ユニチカ／その他

3. C T M（電荷輸送材）市場（2021年）

- 1) 全世界の市場／内製メーカー及びCTMメーカーの出荷量（日本／韓国）
- 2) C T Mの種類／材料別生産量
- 3) 価格動向と採算性
- 4) 内製メーカーと専門メーカーの動向
内製メーカー／高砂香料工業／日触テクノファインケミカル／保土谷化学工業／
韓国・台湾メーカー
- 5) 主要供給関係

4. C G L／C G M（電荷発生層）市場（2021年）

- 1) バインダー樹脂の材料及び価格と採算性
- 2) CGM材料、メーカー（内製メーカー、専門メーカー）

5. U C L（下引き層）／O C L（表面保護層）の材料（2021年）

- 1) 採用メーカー 2) 材料 3) 課題（採算性）

E. 感光体別直径別機種一覧（2018年～2022年直近）

1. 複写機複合機 2. レーザー／LEDプリンタ・複合機 3. プロダクションプリンタ

◆ 感光体マーケット総覧の内容イメージ図 (2021年版より) ◆

<分析編> <感光体市場編>

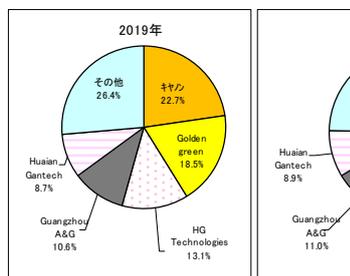
4. 世界のベスト10 (生産量シェア) (2019年~2021年)

1) 全体

単位:%

順位		2019年	2020年	2021年(見込)
1	Goldengreen (中国)	18.5	21.0	19.5
2	キヤノン	22.7	19.6	21.0
3	HG Technologies (中国)	13.1	14.8	14.7
4	Guangzhou A&G Optoelectronics Technology (中国)	10.6	11.0	10.6
5	Huaian Gantech Opto-Electronics (中国)	8.7	8.9	8.5
6	富士電機	5.9	5.9	6.1
7	京セラグループ	4.4	4.9	5.1
8	三菱ケミカル	4.7	4.1	4.5
9	リコー	2.3	2.1	2.1
10	富士ゼロックス			
-	その他			
	合計			

※順位は2020年実績

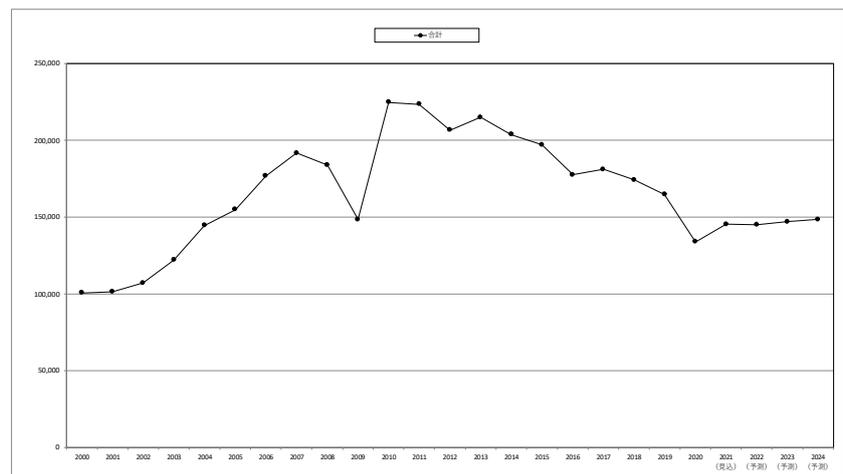


トップメーカーのキヤノンがシェアを落とし続けている。1~2019年で2位のGoldengreenが、2020年でキヤノンを抜いている。

注:京セラグループ:京セラと京セラドキュメントソリューションズ

4) 25年間の生産量推移 (1) 日本メーカーの全体

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 (見込)	2022 (予測)	2023 (予測)	2024 (予測)
キヤノン	96,640	92,140	95,650	93,650	77,230	83,050	99,000	107,000	99,490	74,230	141,150	138,430	109,410	112,620	102,200	97,290	82,520	91,000	89,680	85,400	66,200	72,360	70,820	71,960	72,980
リコー	2,270	3,220	3,280	4,240	5,490	5,720	6,290	12,120	18,480	9,850	12,220	11,940	14,820	14,220	15,040	14,800	12,950	9,950	9,430	8,500	7,860	7,230	7,400	7,390	7,390
山梨電子工業	5,910	6,830	6,990	6,170	5,820	5,900	5,940																		
富士ゼロックス	5,100	6,250	7,150	7,210	8,200	8,200	10,720	12,000	12,600	9,200	10,000	12,000	12,000	16,200	14,000	13,000	12,700	11,600	9,200	9,200	6,000	7,000	6,800	6,800	6,400
ユニオパソルタ	1,100	1,200	1,200	1,450	2,250	2,870	3,060	3,220	2,490	2,760	2,850	2,900	3,000	3,000	3,600	4,000	4,200	4,200	4,200	2,900	3,400	3,650	3,650	3,600	3,600
京セラ	400	440	450	540	700	700	890	950	790	890	1,120	1,150	1,200	1,250	1,200	1,200	1,200	1,200	1,350	1,360	1,490	1,130	1,170	1,210	1,240
富士フイルム	3,500	3,720	4,200	6,800	8,000	9,300	10,300	10,900	10,700	8,200	9,700	10,000	10,800	10,800	11,400	11,400	12,570	13,700	15,000	15,900	15,100	15,550	16,300	16,480	16,580
三菱ケミカル	15,300	15,200	16,300	19,300	23,000	24,300	24,300	25,600	24,700	22,100	23,300	23,300	22,200	21,400	21,700	22,600	22,000	19,800	18,810	17,890	14,000	15,480	16,580	17,030	18,580
富士電機	9,200	11,400	11,620	11,610	13,210	13,820	16,020	18,010	20,910	20,900	22,810	20,000	20,000	20,000	21,000	20,000	27,000	26,500	23,740	22,150	19,900	21,000	20,700	20,300	19,800
シャープ	150	340	340	390	490	490	490	1,800	1,670	1,580	1,700	1,750	1,740	1,740	1,730	1,700	1,600	1,650	1,650	1,490	1,200	1,400	1,470	1,450	1,450
他	740	760																							
合計	180,810	191,370	197,190	221,990	144,620	154,890	176,830	191,690	183,820	148,470	224,640	223,440	206,640	214,890	203,700	197,070	177,070	181,020	174,190	164,790	123,850	145,390	145,080	146,920	148,470



注)山梨電子工業は2007年からリコーに合算。

日本メーカーの感光体生産量は2010年に約2億2,500万本のピークを記録したが、その後の10年間で需要は急減し、2020年についてはリーマンショック時の約1億4,800万本を下回る規模にまで減少した。2021年以降は回復していくが、全体生産量は1億5,000万本弱の規模に留まる見通しである。

<分析編> <感光体市場編>

※実際のレポートには数字やコメントが入っています。

(4) 中国での生産

		(単位:千本)														
		2018年		2019年		2020年		2021年(見込)		2022年(予測)		2023年(予測)		2024年(予測)		
		%		%		%		%		%		%		%		
日本 メーカー	キヤノン大連	PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		小計														
	富士電機(深圳)	PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		小計														
	京セラ(キエムメント 光学テクノロジー (東莞))	PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		小計														
	リコーアジア インダストリー (深圳)	PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		小計														
小計		PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		対前年比%														

		2018年		2019年		2020年		2021年(見込)		2022年(予測)		2023年(予測)		2024年(予測)		
		%		%		%		%		%		%		%		
海外	APS Photoconductor (Shanghai)	PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		小計														
	Guangzhou A&G Optoelectronics Technology	PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		小計														
	HG Technologies	PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		小計														
	Huian Gantech Opto- Electronics	PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		小計														
Suzhou Goldengreen Technologies	PP/PPC															
	プリンタ/FAX															
	小計															
その他	PP/PPC															
	プリンタ/FAX															
	小計															
小計		PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		対前年比%														
合計		PP/PPC														
		プリンタ/FAX														
		対前年比%														

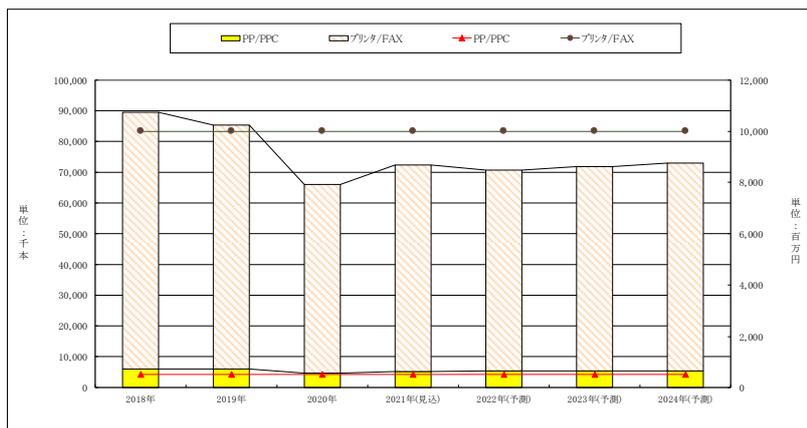
B-1-2. 日本の感光体メーカー個票

[1] キヤノン

1. 全体状況

1) 生産本数/生産金額の推移 (2019年~2025年)

		2018年		2019年		2020年		2021年(見込)		2022年(予測)		2023年(予測)		2024年(予測)	
		%		%		%		%		%		%		%	
生産本数 (千本)	PP/PPC														
	対前年比(%)														
	プリンタ/FAX														
	対前年比(%)														
合計															
		対前年比(%)													
生産金額 (百万円)	PP/PPC														
	対前年比(%)														
	プリンタ/FAX														
	対前年比(%)														
合計															
		対前年比(%)													



① キヤノンの2020年における感光体生産量は対前年比77.5%の6,620万本。コロナ影響によりPPC向けが大幅に減少したほか、HP向けを中心とするプリンタ用でも需要が停滞した。2021年は前年の反動増が予測されているが、トナー・ドラム分離型カートリッジの採用を拡大したことでプリンタ用ドラムの交換需要は減少していくことが既定路線となっており、今後も以前のレベルに戻る可能性は低い。

② 用途別にみると、2020年はこれまで堅調に推移していた複写機用の需要が大幅に減少した。2020年後半から2021年前半の需要は回復基調となっているが、オフィス面積の縮小傾向や長寿命ドラムの搭載機種が増えていることを考慮すると今後も2019年レベルに戻る可能性は低い。
プリンタ用は、大口顧客であるHP向け需要の減少が続いている。コロナ影響により中高速機向けの感光体需要が減少しているほか、HPがキヤノンエンジンからHP Printing Koreaエンジンへとシフトした低速機向けでも需要が減少した。また、サードパーティ製品による侵食も相変わらず大きい。2021年以降はサードパーティに奪われた需要を取り戻していくことで、数量回復を目指している。

<感光体素管市場編>

※実際のレポートには数字やコメントが入っています。

4. 素管メーカー別直径別長さ別生産量

(単位:千本)

(φ)	メーカー	昭和電工	UACJ 押出加工	日軽金 アクト	富士アルミ 管工業	計	
							%
A 4	20						
	24						
	30						
	40						
	47						
	60						
	計						
A 3	30						
	40						
	47						
	50						
	60						
	80						
	84						
	90						
	100						
	108						
A 2 以上	120						
	180						
	210						
	計						
	240						
	260						
	計						
	合計						

5. 感光体メーカーへの供給量 (2020年)

1) 全体

(千本)

	昭和 電工	UACJ 押出 加工	日軽金 アクト	富士 アルミ 管工業	小計	中国 メーカー その他	合計
キヤノン							
キヤノンバージニア(米)							
キヤノン(中国/大連)							
小計							
山梨電子工業本社							
山梨電子工業沼津							
山梨電子工業タイランド(タイ)							
リコーインダストリー東北							
小計							
富士ゼロックス							
ゼロックス							
コニカミノルタ							
京セラ							
京セラドキュメントソリューションズ							
京セラドキュメントテクノロジー(中国/東莞)							
小計							
三菱ケミカル							
三菱ケミカルインフォニクス(シンガポール)							
小計							
富士電機(中国/深圳)							
シャープ							
その他							
合計							

* 感光体マーケット総覧 既刊案内 *

1. 1987年 7月 「OPC 感光体市場の現状と将来予測」
2. 1990年 6月 「拡大続ける OPC 感光体市場のビジネスチャンス分析」
3. 1991年 5月 「全感光体の応用分野別市場の将来性分析」
4. 1992年 12月 「全感光体の需要構造とメーカー戦略」
5. 1993年 11月 「小径化が加速する感光体ビジネスの将来展望」
6. 1995年 2月 「OPC の高機能化で変容する全感光体の中長期展望」
7. 1996年 4月 「感光体マーケット総覧」
8. 1997年 4月 「カラー新市場が喚起する感光体ビジネス展望」
9. 1998年 6月 「転換期を迎えた感光体市場の総合分析」
10. 1999年 6月 「本格化したカラー電子写真を支える感光体の技術と市場展望」
11. 2000年 8月 「淘汰が進む感光体ビジネスの展望」
12. 2001年 12月 「カラー電子写真の進展と感光体市場の最新動向」
13. 2002年 12月 「高精細画像を支える感光体の将来考察」
14. 2003年 12月 「拡大するカラー電子写真を担う感光体の将来展望」
15. 2005年 2月 「長寿命化と高解像度対応が進展する全感光体の最新市場と将来性分析」
16. 2006年 2月 「サードパーティメーカーが急増する全感光体市場の総合分析」
17. 2007年 2月 「海外生産が加速する全感光体市場の総合分析」
18. 2008年 2月 「カラー化で急増する感光体市場の現状と将来展望」
19. 2009年 2月 「構造改革が迫られる感光体市場の総合分析」
20. 2010年 2月 「サードパーティ増加で変わる感光体市場の展望」
21. 2011年 2月 「V字回復で攻めに転じた感光体ビジネスの分析」
22. 2012年 2月 「多国籍化する感光体ビジネスの展望」
23. 2013年 2月 「コスト削減に腐心する感光体ビジネスの将来性」
24. 2014年 2月 「長期戦略が求められる感光体市場の総合分析」
25. 2015年 2月 「収益体質確立を目指す感光体市場の総合分析」
26. 2016年 2月 「事務機業界の再編で見直し急務の感光体市場」
27. 2017年 2月 「電子写真の心臓部品・感光体の市場変貌」
28. 2018年 2月 「固定部品化が進む感光体市場の展望」
29. 2019年 2月 「中国が日本を追い越す感光体業界の実情」
30. 2020年 2月 「新たな中国市場戦略が求められる感光体業界のゆくえ」
31. 2021年 2月 「戦略転換が求められる感光体業界の試練」

※バックナンバー及び、レポートの部分提供も行っております。詳しくはお問い合わせ下さい。

* 2022年版 感光体マーケット総覧*

『基幹部品としての重要度を堅持する感光体市場の展望』

＝依然として存在感を示し続けるキー部品＝

日・中・米・欧の市場調査

株式会社データ・サプライ

〒110-0005

東京都台東区上野6-6-1 舶来堂ビル5F

TEL 03(3831)9201

FAX 03(3831)9204

株式会社データ・サプライ刊行物案内／申込書

（刊行日・価格の変更があります）

住所：〒110-0005 東京都台東区上野6-6-1 舶来堂ビル5F
 TEL：03(3831)9201、FAX：03(3831)9204
 E-mail：yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp
 ホームページ：http://www.datasupply.jp/

- 以下の枠内にご記入いただき、下表のご希望の調査資料に希望部数、金額をご記入ください。最短で翌日（部数、地域による）に到着するように発送いたします。
- 申込はメール、FAX、郵送のいずれでも可能です。申込と同時に現物と請求書を発送させていただきます。尚、発刊日前の申込につきましては、申込時に半金の請求をし、発刊日に残金（現物とも）の請求をさせていただきます。

申し込み日 2022年 月 日

御社名

御住所 〒

御電話番号

御担当部署

御担当者

	日本語版		英語版		部数	金額
	価格 (消費税別)	刊行日	価格 (消費税別)	刊行日		
《 定期刊行物 》						
* 「月刊電子写真総合情報」 一電子写真に関する総合的なレポート（1986年～） 年間1,200～1,300頁	年会費：¥700,000 月会費：¥60,000	毎月 20日	\$7,000 \$600	毎月末	日 英	年 月号より ヶ月/年
i4inkjet [Directions] (年6回発行、年300頁～) ※インクジェット関連の特許技術レポート	—	—	¥605,000～ (税込)	7/27～	英	
《 2022年刊行予定物 》						
* 2022年版[感光体マーケット総覧] 『基幹部品としての重要性を堅持する感光体市場の展望』	¥500,000	2/25 予定	\$5,200	4/下予定	日 英	
* 2022年版[ローラー系部品マーケット総覧]	¥400,000	4/下予定	\$5,000	注文対応	日 英	
* 2022年版[トナーマーケット総覧]	¥600,000	6/下予定	\$6,000	8/下予定	日 英	
* 2022年版[インクジェット印刷マーケット総覧]	¥500,000	10/下予定	\$5,000	12/中予定	日 英	
* 2022年版[MFPマーケット総覧] (フルレポート)	¥600,000	12/下予定	—	—		
総合分析編・PPC市場編/プリンタ・プロダクションプリンタ市場編	各¥350,000		—			
《 2021年刊行物 》						
* 2021年版[感光体マーケット総覧] (286頁) 『戦略転換が求められる感光体業界の試練』	¥500,000	2/25	\$5,200	4/26	日 英	
新レポート *2021年版『出力機器関連機材ハンドブック』(282頁)	¥200,000	3/24	—	—		
* 2021年版[ローラー系部品マーケット総覧] (630頁) 『コストと品質が命綱となったローラー系部品業界の未来』	¥400,000	4/22	\$5,000	注文対応	日 英	
* 2021年版[トナーマーケット総覧] (572頁) 『働き方の多様化で変化が加速するトナー市場の最新動向』	¥600,000	6/25	\$6,000	8/24	日 英	
* 2021年版[インクジェット印刷マーケット総覧] (377頁) 『新たなイノベーション創出を目指す 産業用インクジェット業界の最新動向』	¥500,000	10/26	\$5,000	12/10	日 英	
* 2021年版[MFPマーケット総覧] (フルレポート) (640頁) 『業界変革期を迎えた複合機・プリンタ市場の将来性分析』	¥600,000	12/22	—	—		
総合分析編・PPC市場編/プリンタ・プロダクションプリンタ市場編	各¥350,000		—			
《 その他の刊行物 》						
* 2014年版[企業便覧シリーズ] (128頁) 『中国の機能性部品ローカル企業100社便覧』	¥150,000	2014年 9/29	\$1,500	2014年 10/31	日 英	
* 2013年版[オフィスユーザー調査] 分析編(810頁)、写真データ(535頁) 『インドにおける500社の複写機・LBP等の写真付ユーザー実態調査』	¥800,000	2013年 9/25	—	—		